

「12時あたり9万円以下」実現 卒FIT向け蓄電システム発表

スマートソーラー

スマートソーラー（東 家消費モード、災害対策
京都中央区）はこのほ モード・自立運転モード
ど、卒FIT向け蓄電シ の機能に加え、経済産業

者に販売する「D to Cビ
ジネスモデル」で、卒F
IT導入市場のシェア10
割獲得を目指す。
「スマート蓄電システ
ム」は、既設の太陽光発
電システムをそのまま使
用する「ストレージ・シ
ステム（11・8割時）」
と、ハイブリッドPCS
の「ハイブリッド・シス
テム（11・5割時）」の
2タイプ。約12割時の大
容量蓄電池、最大97・5
割の高効率・最大5・5
割の高出力PCS、停電

導入市場シェア10割獲得を目指す

時のバックアップ全負荷
自動切替装置「スマート

会見での代表取締役・手塚博文氏



常時監視システ
ム「スマートA
I」で構成され
る。

住宅用太陽光 発電システム設 置世帯数は累計 で約240万戸 となり、そのうち 約56万戸は年 内にFIT満了 する。「自家消 費モード」は、余剰電力

スイッチボックス」、A
I機能搭載の最適制御・
をほぼ全て蓄電し、蓄電

卒FIT向け蓄電システム「スマート蓄電システム」



同社は、直接
消費者に販売す
る「D to Cビジ
ネスモデル」確
立を目指す。A
I画像認識シス
テムを活用し、
全国約260万
世帯の太陽光発
電設置者を抽出
し、卒FITユ
ーザーを特定す
る。ダイレクト

池の充放電をAIで最適
制御して、可能な限り電
気を買わずに自家消費を
優先する。
また、多発する自然災
害の停電に対しては、台
風や大雨などの警報が発
表されると自動で蓄電池
を満充電し（災害対策
モード）、自動で自立運
転に切り替える（自立
運転モード）。全負荷型
で200ポル機器も使用可
能。

マークETINGによる直
接販売を実施しデータベ
ーシ化を進める。第一弾
として「無償設置キャン
ペーン」、「キャッシュバ
ックキャンペーン」、「余
剰電力買取キャンペーン」
を展開し、ユーザー
にアプローチを開始する
予定だ。

「卒FIT世帯の30％
40割が蓄電システムを導
入する」と代表取締役・
手塚博文氏は見ている。